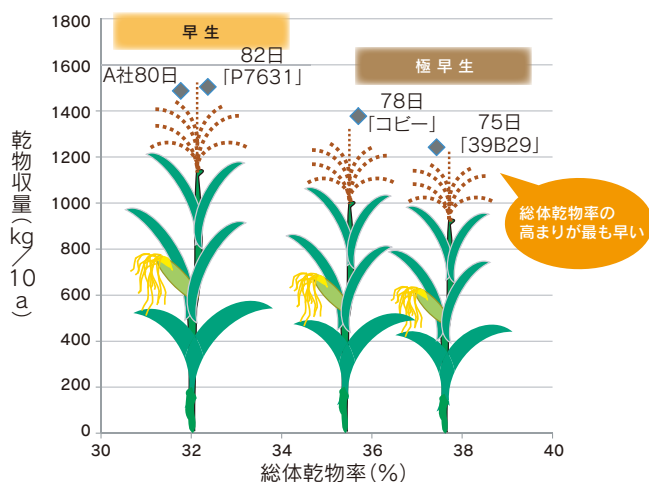


極早生品種の使い方

極早生品種は、85日クラスの早生品種と比べると収量性は1～2割ほどの低収となるとともに、すす紋病など各種病害に罹病するタイミングが早まりますが、登熟に至るまでに必要な適単積算温度が100～130℃ほど少ないため、収穫時期を早めることができます。

■極早生～早生品種の収量性と乾物率



■早刈試験 (帯広・北見2カ所平均 2012年)

クラス	品種	9月第1週	9月第2週	9月第3週
熟期				
75日	39B29	糊後	黄初～	黄後
78日	コビー	糊後	黄初～	黄後
82日	P7631	糊中	糊後～	～黄中
総体乾物収量 (kg/10a)				
75日	39B29	1,251	1,258	1,273
78日	コビー	1,289	1,351	1,485
82日	P7631	1,356	1,428	1,552
総体乾物率 (%)				
75日	39B29	25.3	26.8	34.0
78日	コビー	25.4	26.7	31.7
82日	P7631	23.0	23.7	28.4

播種日
【帯広】5月22日
【北見】5月18日

収穫日
9月第1週
【帯広】9月 7日
【北見】9月 5日

9月第2週
【帯広】9月14日
【北見】9月13日

9月第3週
【帯広】9月21日
【北見】9月24日

同じクラス表記で販売されていても種苗会社によっては熟期に差があることがあります。
地域における栽培試験結果等を入手することも重要です。

9月上旬ごろの収穫が求められる秋播き小麦前作としての飼料用トウモロコシ栽培では、デンプン源としての雌穂の登熟が早く、良質なサイレージ発酵 (総体乾物率30%前後) が見込める極早生品種が最適です。

トウモロコシの収穫適期とは

トウモロコシは黄熟中～後期でサイレージ調製に適した乾物率30%に達する。

登熟ステージ

水熟期 受精後1～2週間。子実は透明な乳白色。つぶすと透明から薄い水様物がでる。

乳熟期 水熟期からおよそ10日後。子実内部はミルク状物。
(スイートコーンであれば乳熟後期から次の糊熟期にかけて収穫される)

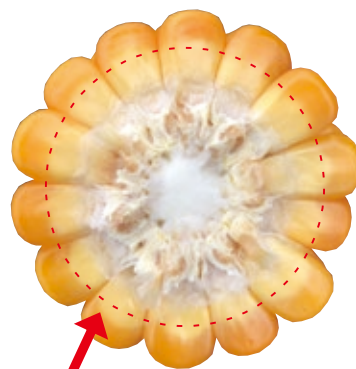
糊熟期 乳熟期からおよそ7～10日後。子実内はチーズ状に硬化。つぶすとミルク状物と糊状物が出る。表面は固くなりデント系 (晩生品種に多い) の品種は頂点にくぼみが始める。
糖含量が急速に減少し、次第にでん粉に取って代わる。

黄熟期 糊熟期からおよそ10日後。子実の水分は約40～45%、子実内部は爪で割れるほど硬化する。子実表面もほぼ硬化する。デント系の品種は頂部がくぼんで馬歯状になる。表面を潰しても何も出ないが、子実中心部にはわずかにミルク状物、糊状物が残る。

サイレージ用の収穫適期

完熟期 黄熟期から10日前後。子実の水分は約35%で子実量が最大に達する。ミルクラインは完全に降下する。

過熟期 個体全体と子実の水分低下および乾物損耗が進む。(子実用ではこの時期での水分低下を待つて収穫適期となる)



ミルクライン

● ミルクラインの見方 ●

子実の上位1/3付近で実を折り、先端側の子実を見る。折った直後はミルクラインが見えづらいが、1～2分するとくっきり見えるようになる。ミルクラインがおおよそ2分の1に達したときが収穫適期。

■トウモロコシの切断長と破碎処理設定

	切断長	破碎処理
糊熟期	10mm前後	破碎処理は行わない (排汁として栄養ロスが発生する。) コーンクラッシャーが付いている収穫機は、ローラ間隙を最大にする。
黄熟期	10mm前後	ローラ間隙は3～5mmとする。
完熟期	6～9mm前後 水分が少ないため踏圧が効き難く、開封後に二次発酵しやすい。 そのため、設定切断長を短め (6～9mm) とし、サイレージ密度を高める。	早ばつ・枯れ上がり、被霜して水分が少ない場合も同様。 子実を十分つぶす為ローラ間隙は1～3mmとする。